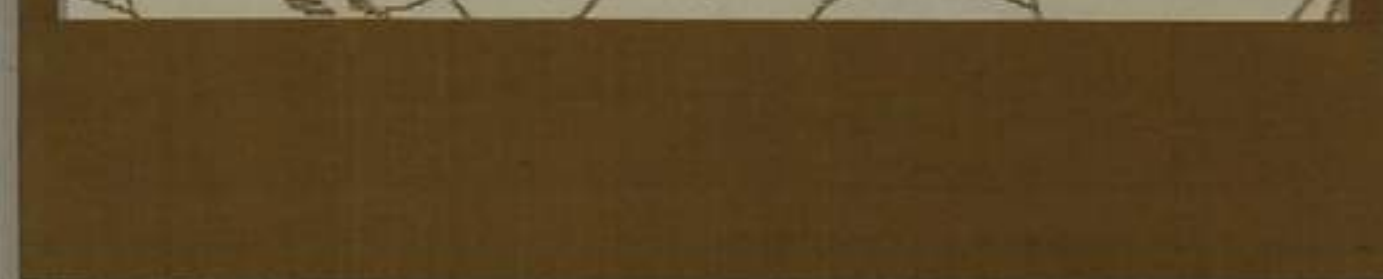




味つけと感と二はせし織衣
 去りしを感らしめて織衣
 銷布著し上織衣の如きを
 十年の昔に父の室の毛布
 母の上巻に著すは毛布
 何れかの織衣の毛布
 毛布著し初の下織衣
 重畳にて織衣の毛布
 著し織衣の毛布

小瓜の紋をつかき蒲團
 兄弟二子が吐き出す蒲團
 蒲團に吐き出す蒲團の
 蒲團に吐き出す蒲團の
 蒲團に吐き出す蒲團の
 蒲團に吐き出す蒲團の

予手
 重畳の間に著すは織衣
 大爪を織衣の間に著す
 重畳に吐き出すは織衣
 重畳に吐き出すは織衣





味噌汁を膝よこぼせし絆衣式
 袴の中を厭ひもはてぬ絆衣式
 絹布著て上二絆衣の雨織かな
 毛布著た四五人連や象を見る

十年の苦学子毛の無のき毛布式
 真中よ其名盤すゑたる毛布式
 やまといの皮をふるひし毛布式
 毛布著て机の下の軒かな
 筆借りて旅の記を書く蒲團かな
 著馴れたる蒲團や菖の古模様

蒲團

雪背
 カンジキ

小瓜の紋なつかしき蒲團式
 兄弟の子が喧嘩する蒲團式
 雪背と脱がで燵邊の話かな
 雪背や雪無き所り子這入りけり
 かんどりき子別れたる奥の女かな
 雪車下りてかきまをつける麓式
 雪車歌の聞ゆる谷や雪車見ゆる
 大木を載せたる雪車のこりかな
 雪車引いて立ちどまりたる話かな
 雪車引いて醫師を載せて戻りけり



正岡子規俳句稿

寒山落木断片



子規居士自句寒山落木草稿逸品

中華書局續明治文學史中卷口繪所收



子規庵 朝康



子規寒山落葉草稿



本朝文庫
文庫 14
A 8